

ヤナギタウコギ

Bidens cernua

キク科

名前の由来

近縁の仲間にタウコギ、エゾノタウコギがある。「田五加木（たうこぎ）」は葉が樹木のウコギに似て、田に生えることからついた。また、「柳」は葉の様子が樹木のヤナギに似ることからついたと思われる。

漢字名：柳田五加木

特定種

国レッドリスト（2007）・・・絶滅危惧 I A類（CR）
北海道レッドデータブック・・・絶滅危惧種（EN）

形態的特徴

高さ0.5～1mになる。葉は対生し、やや茎を抱く。葉は披針形（細長い）で長さは10～15cm、先が鋭くとがり、縁には低く鋭い歯がある。全体はほとんど無毛。花は中心部が筒状花、外縁部が舌状花から形成される頭花（小さい花が集まり一つのように見え、茎の先につく）で、直径は開いた総苞片を含めて約4cm。総苞片は5～6個あり、葉と同じような形をしている。舌状花の花びら黄色で大きく、長さ10mm内外で、先に2歯がある。果実は狭いくさび形で、下向きの刺のある4稜があり、上方に長さ2～3mmの芒（のぎ：トゲ状のもの）がある。

類似種と見分け方

タウコギ、エゾノタウコギ、アメリカセンダングサ。
タウコギとエゾノタウコギは湿地に生育する。ヤナギタウコギの葉は深く裂けないが、タウコギとエゾノタウコギの葉は羽状に深裂する。また、ヤナギタウコギは頭花に舌状花があるが、タウコギとエゾノタウコギにはなく、筒状花のみである。
アメリカセンダングサは湿った草地や荒地などに生育する、北アメリカ原産の外来種である。ヤナギタウコギの葉が単葉であるのに対し、アメリカセンダングサの葉は羽状複葉である。また、ヤナギタウコギもアメリカセンダングサも頭花に舌状花を持つが、ヤナギタウコギの舌状花が長さ10mm程度であるのに対し、アメリカセンダングサの舌状花はごく短い。

生活サイクル

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開花期					■							
結実期						■						



ヤナギタウコギ



ヤナギタウコギの種子



類似種アメリカセンダングサ（外来種）

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

（在来種）
草花

（外来種）
草花

哺乳類

（水辺）
鳥類

（草原・樹林）
ワシ・タカ

生育環境・分布

水が浸るような湿地に生育する。

分布：国外分布は、北半球北部。

国内分布は、北海道と青森県にのみ記録がある。

北海道内分布は、石狩、胆振、釧路、根室に記録がある。

これまで十勝では確認されていなかったが、平成15年に新産地が発見された。沼の水際に発達した浮島状の植物群落に生育が見られる。



写真は12月。枯れかかった黄緑色がヤナギタウコギ。他の植物が形成した浮島状の植物群落に生育する。

生活史

開花時期：8～9月

寿命：1年草。

開花までの年数：1年以内

他生物との関わり

十勝での生育環境として、他の植物が形成した浮島状の植物群落の上に生育する。

興味深い話

■非常に稀な植物で、環境省のレッドデータブック(2000)には「現状不明」「絶滅した可能性が高い」と記載されている。また、北海道のレッドデータブックには「既知の全ての生育地で生育環境が著しく悪化している」と記載されている。

■国(環境省)レッドリストの絶滅危惧ⅠA類(CR)とは「ごく近い将来における絶滅の危険性が極めて高い種」

である。

■平成15年に十勝で新産地が発見された。新産地では約3000株が確認された。いずれも他の植物(主にツルスゲ：カヤツリグサ科。湿原のヨシやスゲ類に混生したり、湖沼の縁などに大きな純群落をつくる多年草)が形成した浮島状の植物群落の上に生育していた。



ヤナギタウコギの花。黄色い花びら(舌状花)が目立つ。



写真は12月。種子が実っている。

配慮事項

非常に稀な植物であり、また、現在のところ生育条件や生活史が解明されていない。そのため、生育している環境全体が大変重要である。

参考文献

「北海道植物図譜」滝田謙譲 自費出版 2001

「日本の野生植物 草本Ⅲ」佐竹義輔・大井次郎 他 平凡社 1981

「北海道 夏～秋の花 絵とき検索表Ⅲ」梅沢俊 エコネットワーク 2001

「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 -レッドデータブック- 8 植物Ⅰ(維管束植物)」環境省 2000

「北海道の希少野生生物 北海道レッドデータブック 2001」北海道 2001

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種)
草花

(外来種)
草花

哺乳類

(水辺)
鳥類

(草原・森林)
鳥類
ワシ・タカ